

プレイエルとショパンの物語  
VOL.4 異国の風

# 早川奈穂子

フォルテピアノリサイタル

10/22 2024 Tue

open 18:30 start 19:00

兵庫県立芸術文化センター  
神戸女学院小ホール

CHOPIN

プレリュード op.28

PAULINE VIARDOT

バイオリンとピアノの為の6つの作品

他、オルフェオとエウリディーチェ、10月、愛の夢



7/7(日)  
発売開始

全席自由

当日  
500円増

一般 ¥4,000 学生 ¥2000

◇芸術文化センターチケットオフィス

◇Harmonie des Fleurs ◇PassMarket

未就学児のご入場はご遠慮願います。

お問い合わせ

ミュージック・アート・ステーション  
06-6836-7067

主催: Harmonie des Fleurs

助成: 公益財団法人神戸文化支援基金

後援: ポーランド広報文化センター一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)



ポーランド広報文化センター  
INSTYTUT POLSKI TOKIO



使用ピアノ  
プレイエル 1845年製  
The Dias Collection

Guest  
ヴァイオリン  
佐藤一紀  
(ガット弦使用)

Chopin et Pleyel de Ballade de

**プレイエルを聴く時、音の強弱、色合い、質感が常に変化し  
蝋燭の炎のような纖細さと魅力があり、異空間へと誘われる…**

- Producer R.P.Dias

このコンサートでは1845年製のプレイエル(No.11457)が使用される。プレイエルはショパンが最も愛したフランスのピアノメーカーで、晩年はこの楽器と同型のプレイエルで作曲していた記録が残っている。古楽器の選定や修復には、モダンピアノ仕様に改変しない様に多くの古楽器を知り経験のある修復師に依頼する必要がある。その為英國王立音楽院博物館の名誉理事長Christopher Nobbs氏と共に選定に周り、最終的にDavid Winston氏のプレイエルが選ばれた。Winston氏はCobbe Collectionが所有するショパンが晩年所有していたプレイエルや、ベートーヴェンが使用していたBroadwood、またイギリス王室所有のErardの修復も任せられたイギリスで信頼の置かれている修復家。また2019年には現在英國王立音楽院博物館やスウェーデン王室、ヨーロッパの著名古楽演奏家達の歴史的ピアノコレクションの調整も担当しているMichael Parfett氏が来日、このプレイエルの調整を調律師阿部秀明氏と共に行った。早川は日常的にプレイエルを弾く環境にあり、譜読みの段階からプレイエルに触れる事により、これまでの概念を覆す飽和しそうない響きや演奏解釈を見出す。プレイエルという楽器の「語る」特質、そしてチェンバロの時代から続く発音方法の心的印象により、ショパンの新たな声が聴こえて来ると言評を呼ぶ。プレイエルによる19世紀の音のニュアンス、高低バランスの違い、余韻の違い、ショパンのペダル記譜(特にノーペダル箇所)に従った効果…CDでは聴くことができない空気を通した生の演奏を是非ご堪能下さい。

**私は気分のすぐれない時はエラールのピアノを弾きます  
このピアノは完成された音を出すからです  
しかし、身体の調子が良くて自分だけの音を出してみたい時は  
プレイエルのピアノが必要なのです**

- F.F. Chopin

 [Naoko's YouTube](#)

**フルティピアノ *Naoko Hayakawa* 早川奈穂子**

大阪音楽大学卒業(橋野豊子氏に師事)。学内では特研(演奏家のための特別選抜コース)にて野島稔氏に師事し在学中よりコンクールに多数入賞。学外ではBarry Snyder氏の元で数年に渡りロシア奏法を学ぶ。クールシュヴェル国際音楽アカデミー(フランス)へ渡り研鑽、現地でのコンサートに出演。その後モスクワ音楽院セミナーにてDina Joffe女史に度々彼女の元への留学を薦められ、数年間レッスンを受ける。岸本雅美女史の元ではバロック・古典作品の演奏法を特に学び、演奏と理論の礎に多大な薰陶を受ける。2001年ノーヴィ国際音楽コンクール第1位を受賞。2006年ポーランド国立ショパン大学にてテレサ・マナステルスカ女史の元研修し、ポーランドにおけるショパンの伝統的な演奏法を学ぶ。その間ウィーンやドイツ・イタリアで学んだ様々な声楽家・管弦奏者の指導下でのレッスンピアニストを長年務め、声楽的・他楽器の見地からの演奏法と共にオペラや歌曲・室内楽作品に多く触れる。現在は全国各地でリサイタルや多数のコンサートに出演。京都市交響楽団メンバーとも室内楽共演を重ねる他、協奏曲ソリストとしても各オーケストラより度々招聘され、黒岩英臣氏などと共に演ずる。共演中の創作演奏をきっかけに作編曲の依頼も増え楽譜出版に携わり、編曲作品はCD収録やコンサートでよく使用されておりラジオでも取り上げられる。楽器店での楽曲レクチャーやコンサート、新響楽器コンクールやヤマハヤングピアニストコンサート審査員を務める他、東北や熊本での復興支援コンサートにも長年関わり、心と体・脳・自然・哲学・教養、豊かな視点で後進指導にも携わる。2017年春よりピリオド楽器(プレイエル1845年、エラール1875年、ロングマン&プロデリップ1785年他)に偶然の重なりで出逢う。試弾を聴いていた英国人楽器オーナーによりレコーディングプロジェクトにスカウトされ、日常的にこれらの楽器を練習できる機会に恵まれた。現在は伴侶となり1845年製のショパンの愛したプレイエルで録音やコンサートが共に進められている。2019年よりイギリスの多くの歴史的ピアノコレクションを訪れ、約90台のオリジナルのピリオド楽器(1600~1800年代)を試弾。その際古楽界で世界的に有名なフィンチコックス博物館に招聘され、2023年イングランドでの博物館主催のコンサートシリーズに出演、グラーフやエラールでのリサイタルとレクチャーパフォーマンスを行い好評を得た。フルティピアノやチェンバロのピリオド奏法をフランスやイギリスにてSally Sargent氏、Linda Nicholson氏に師事している。<http://naokohayakawa.com>

**ヴァイオリン *Kazunori Sato* 佐藤一紀**

京都市立芸術大学音楽学部卒業、同大学院音楽研究科修了。パリにて現代音楽を中心に研鑽を積む。兵庫芸術文化センター管弦楽団(H PAC)第1期コアメンバー、長岡京室内アンサンブルメンバー、いずみシンフォニエッタ大阪、各メンバーとして活動。古楽器奏者としてフランスサント市古楽フェスティバルで、ジョセ・ファン・インマゼール、フィリップ・ヘルヴェッヘらと共に演じる。パリ、フガートアソシエーション弦楽講習会、ニューヨークヴァイオリンサミット教授として、また国内外の主要オーケストラのコンサートマスターとしても招聘されている。現在、相愛大学音楽学部、及び大学院非常勤講師を務める。KOTO Quartet、TAKE★SATelliccoも結成、活動の場を広げている。M. オークレール、R. パスキエ、Mle. ディゼス、S. ルセフ、バロックヴァイオリンをA. モッチャの各氏に師事。

- ◇ 芸術文化センターチケットオフィス
- ◇ PassMarket
- ◇ Harmonie des Fleursチケットオフィス
- ◇ ミュージック・アート・ステーション

0798-68-0255 (10~17時 月曜休み) Web有  
<https://passmarket.yahoo.co.jp/>  
<https://fleurs.official.ec/>

06-6836-7067

